

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：感染症予防費

事業名 特定感染症検査事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部感染症対策推進課 感染症対策第二係 電話番号：058-272-1111(内3355)

E-mail：c11237@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,505 千円 (前年度予算額： 1,606 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,606	803	0	0	0	0	0	0	803
要求額	8,505	4,252	0	0	0	0	0	0	4,253
決定額	5,505	2,752	0	0	0	0	0	0	2,753

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

県内では、B型肝炎ウイルス陽性者が2万人、C型肝炎ウイルスキャリアが3万人いると推定されており、ウイルス陽性者・キャリアの多くは、肝炎、肝硬変、肝がんへと移行するため、無症候性キャリアの早期発見、早期治療への結びつけが必要となっている。

また、エイズ患者・HIV感染者数は依然として増加し、当県でも感染者等は年々増加し、令和4年末までにHIV感染者210名、エイズ患者162名が報告されている。

さらに、梅毒患者が全国的に増加しており、HIV検査と同時に検査を行うことで早期発見、早期治療へ結びつける。

これらの感染症のまん延を防止するためには、感染者を早期に発見し、適切な医療に結び付けることが重要である。

(2) 事業内容

患者・感染者を早期に発見するため、これらの特定感染症に対する検査・相談を保健所において実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

負担区分 国 1 / 2 県 1 / 2

感染症予防事業費等国庫負担(補助)金交付要綱

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	52	特例検査に係る謝金
旅費	44	業務旅費等
需用費	2,199	検査消耗品等
役務費	300	検査成績書送付料、啓発資材等送付料
委託料	5,875	HIV追加検査、梅毒検査及び肝炎ウイルス検査委託料、HIV・梅毒検査委託
使用料	35	検査会場使用料
合計	8,505	

決定額の考え方

事業内容を精査し、所要額を計上します

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

HIV、梅毒及びウイルス性肝炎感染者の早期発見及びまん延防止のため、今後も引き続き、事業を行う必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

B型、C型肝炎、HIV及び梅毒に対する検査・相談を保健所において実施することで、感染者を早期に発見し、適切な医療につなげる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R11)	達成率
① 肝炎ウイルス 検査件数		93件	270件	270件	270件	34.4%
② HIV抗体検査件 数		229件	550件	550件	550件	41.6%
③ TP抗体検査件 数		216件	550件	550件	550件	39.3%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2 年度	平成23年度から引き続き、7保健所においてHBs抗原検査、HCV抗体検査及びHIV抗体検査の無料検査を実施した。平成29年度6月から梅毒検査も受検できるよう検査体制を整えた。また、世界エイズデーに合わせ、各保健所が圏域の大学等と協力して啓発を行った。
	指標① 目標：270件 実績：89件 達成率：33.0%
	指標② 目標：550件 実績：225件 達成率：40.9%
	指標③ 目標：550件 実績：223件 達成率：40.5%
令和3 年度	平成23年度から引き続き、7保健所においてHBs抗原検査、HCV抗体検査及びHIV抗体検査の無料検査を実施した。また、世界エイズデーに合わせ、各保健所が圏域の大学等と協力して啓発を行った。
	指標① 目標：270件 実績：98件 達成率：36.3%
	指標② 目標：550件 実績：194件 達成率：35.3%
	指標③ 目標：550件 実績：187件 達成率：34.0%
令和4 年度	・取組内容と成果を記載してください。 平成23年度から引き続き、7保健所においてHBs抗原検査、HCV抗体検査及びHIV抗体検査の無料検査を実施した。また、世界エイズデーに合わせ、各保健所が圏域の大学等と協力して啓発を行った。
	指標① 目標：270件 実績：93件 達成率：34.4%
	指標② 目標：550件 実績：229件 達成率：41.6%
	指標③ 目標：550件 実績：216件 達成率：39.3%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>HIV、梅毒感染症、ウイルス性肝炎とも、本人が感染に気付かないうちに重症化するとともに、他人にも感染させてしまうおそれがある疾患である。従って、早期発見、早期治療が特に重要な感染症であり、保健所における無料検査の実施は必要性が高い。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>毎年一定数が保健所で検査を受けており、陽性者も発見できていることから、感染の早期発見に寄与しているといえる。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>肝炎検査については、医療機関への委託 (別事業) と併せて実施することで、幅広く受検機会を提供している。 HIV、梅毒検査キットについては、保健所間での在庫調整を行う等、予算の効率的執行を図っている。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 より多くの県民に積極的に検査を受けてもらうためには、早期発見の重要性についての普及啓発が不可欠である。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 岐阜県のHIV感染者は平成23年に過去最高となるなど、近年高いレベルで推移しており、積極的な対策を継続していく必要がある。引き続き、保健所における検査体制の拡充を図っていくとともに、積極的な受検を促すための啓発活動を実施していく。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	<p>【〇〇課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など</p>	